

杖道をみて

1.杖道とは…(みたままを伝える)

杖道は、この授業を受けて初めて知りました。剣道のように棒を使い行う競技で、試合を見に行く上で少し調べて行きましたが、初めて知ることばかりで日本には歴史が詰まったこのような武道のようなものがあるのだと思いました。調べてみても、みてもおもしろいのが様々な年齢層とともに男女や身長関係なく戦えますが、誰も傷つけずみんな同じ位置関係なのがほんとにこの杖道のいいところでもあるなと感じました。

杖道のみたままを伝えますと、一定の同じ動きをキビキビとみんな行なっていて、これを試合とするとどのような審判で勝ち負けが決まるのかなと気になりましたが、杖道は、争い合うものでもないため技の優秀さで審判と副審が判断して決めるという難しいものだと思います。結構棒を顔のすれすれのところをついて、寸止めをしているのでみているわたしがヒヤヒヤしていました。精神を集中させていかないと怪我にもつながる技な気がしました。戦う相手はそれぞれ身長や顔の位置腰の位置が人それぞれ違うので少しでもずればすぐ危険なことにつながる恐れもありそうだなと感じました。しかし、会場の方々はみんな素晴らしく止めも綺麗でそんな不安を感じさせないしっかりとした試合でした。それぞれが、止まるところは止めて突き出すときは素早く綺麗にさっさとだして体の軸がぶれずにしっかりとしていてすごいと感じました。

2.勝敗はいかにするのか

上にも書いてしまいましたが、勝敗は剣道や柔道のように一本を取り合って競い合うとかかとおもったのですがそうではなく、審判 1 人副審 2 人計 3 人で技の優秀さ、技の使い方などを判断していました。そして、棒のおきかたや突き出した棒の正確さなどがしっかりしていた方、丁寧にぶれずに綺麗な方が勝っていたのかなと思いました。そのようなところにも力を入れて審査しているのかと思います。この競技は調べていかなければ勝敗の決め方がほんとにわからないと思うので、調べていてよかったと思いました。調べて試合を見ると気づく点も多く、より楽しく見れると思いました。

3. 写真

